多様な社会環境で生きるインドの農村の人々と交流しながらインドの農村、文化について理解を深めよう

北インドスタディーツアー

2026.3.1 (日)～3.10 (火)

8泊9日

130,000円

世界一の人口、14億人超を誇る大国インド。目覚ましい急成長を遂げ、グローバルサウスの中核を成す国として注目度が増す一方で、伝統的な差別、地域間の経済的格差、貧困、農村疲弊等の問題が増しています。

NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会では2004年より、インドの人たちと共に持続可能な農村農業開発を目指し活動してきました。

弊会の活動の中で育った農村出身スタッフや学生と協働して作業し、学び合うことによって、貴重な体験を得、SDGｓについての理解や興味を深めることができるでしょう。あなたの参加をお持ちしています。

【活動場所】インド ウッタルプラデッシュ州
プラヤグラージ県 サム・ヒギンボトム農工科学大学
マキノスクールと近隣農村

【研修目的】農村開発プロジェクトの活動参加・見学・ディスカッションなどを通して持続的な農業・農村開発や国際理解を深めていきます。

【スケジュール】裏面又はp.2をご覧ください。

【費用に含まれるもの】滞在期間中の研修費、宿泊費、食費、インド観光での交通費、通訳・案内経費、デリー国際空港～マキノスクール交通費・送迎費用、NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会の初回会費

【留意事項】航空券代・海外旅行保険代・ビザ代・日本国内の旅費（約11～12万円）は参加費に含まれておりません。

同行者1が必要な場合当方より指定された航空券をご購入下さい。また、3月1日夕方のデリー空港集合も可能です。詳細はお問い合わせください。

●お問い合わせ・お申し込み先　NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会
☎ 0287-47-7840　Email: info@ashaasia.org　（担当：三浦）

申し込み締め切り
2026年1月15日

左端：学生との協働農作業
左から2番目：組合農家訪問
左から3番目：体験発表会
右端:インドの歴史、文化を知る観光

スケジュール

日程	午前	午後
3月1日(日)	注意：同行者が必要な場合は、成田又は羽田空港集合	デリー国際空港到着ゲート集合。夜行寝台列車でプラヤグラージへ移動 寝台列車泊
3月2日(月)	プラヤグラージ着 オリエンテーション	マキノスクール内の事業活動見学 大学 泊
3月3日(火)	個別研修①	大学 泊
3月4日(水)	全体研修① －農村訪問－	大学 泊
3月5日(木)～6日(金)	個別研修②・③ 7日夕食時 食と親睦会（参加者企画）	大学 泊
3月7日(土)	早朝、バラナシ又はブッダガヤへ出発（汽車）	バラナシ観光又はブッダガヤ観光とブッダの遺跡見学 ゲストハウス泊
3月8日(日)	ブッダの足跡とインドの仏教について学ぶ 夕刻、夜行列車でデリーへ	車中泊
3月9日(月)	朝、デリー到着 デリー観光	夕刻デリー国際空港出発
3月10日(火)	早朝 東京着	到着後解散

ウッタルプラデッシュ州南東に位置するプラヤグラージ県は人口112万、聖なる河、ガンジス河とヤムナー河が合流するヒンドゥー教の聖地として知られ、インド全土より巡礼者が来訪します。1月から3月まで、当地で開催されるマハ・クンブメラ（大祭）は世界最大の祭りとしてギネスブックに登録されています。
　ブッダガヤはゴーダマ・ブッダが悟りを開いた地。世界中より多くの仏教徒が巡礼に訪れます。

◎個別研修内容(選択)
- 有機農業と農村開発
- 農村女性開発と手工芸品デザイン
- 農業組合と市場開拓

注：個別研修はインターンシップの参加者、マキノスクールの学生＆スタッフとの協働活動です。

◎全体研修内容
- 農村部訪問
- シェアリング、発表会
- ブッダガヤ観光
- 朝の農作業(自由参加)

プラヤグラージ県は？

原則、デリー国際空港解散となりますので、インド滞在を延長したい方又は、復路で他のルートで帰国されたい方は個人の責任で、ご計画ください。
東京空港からはアーシャ関係者が同行します。

ご不明な点はメール (info@ashaasia.org)又は電話（0287-47-7840）にてお問い合わせください。申請書、可能な詳細情報をお送りいたします。

マキノスクールとNPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会の関係

　マキノスクールはインド ウッタルプラデッシュ州プラヤグラージ県にあるサム・ヒギンボトム農工科学大学にある学部です。農民のためのプログラムを実施し、長きにわたり農村開発事業を行っています。
　NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会は、このマキノスクールを支援するために2004年に設立され、日本人スタッフ・専門家の派遣やスタディーツアー企画などを行ってきました。
　現在では持続可能な農業・農村開発と有機農業の普及、女性の地位向上と収入向上、組合活動、収入向上などのプロジェクトを現地の人たちと共に進めています。

マキノスクール
(サム・ヒギンボトム農工科学大学)
内にある継続教育学部)